

課 題	1	新しい時代を担う子どもの育成
重点項目	3	幼稚園と保育園の連携・一元化

目的

0歳から就学前までの子どもの成長と発達を見据え、幼児教育と保育が受けられる機会を保障し、豊かな心と社会性を身につけた次代を担う子どもを育てていく環境を整備するとともに、地域のすべての子育て家庭を支援し、地域と家庭の子育て力の向上を図ることを目的として、幼保連携・一元化を推進します。

対象・手段

幼保連携の推進...幼稚園と保育園のしくみを残しながら両者が連携することで、子どもの育ちの環境を整備していきます。

幼保一元化の推進...認定こども園制度を活用して、就学前の子どもが同じ環境の下で保育・教育を受けられるしくみを保障するとともに、子育て中の家庭を支援し、家庭と地域の子育て力の向上を図ります。

重点項目の方向

幼保連携・一元化により、幼児教育を効果的に行うための集団規模を確保するとともに、定員の拡大や預かり保育、給食の提供など多様な保育サービスを提供していきます。また、子ども園では、就労の有無など保護者の事情に関わらず、0歳から就学まで子どもを同じ施設で預けられることで、子どもの育ちの環境を確保します。さらに、つどいのへやや一時保育、子育て相談の利用を通じて、保護者どうしが交流を始めるきっかけを作ったり、気軽に子育ての悩みが相談できるなどの効果が期待できます。

成果指標

指標名		定義			目標水準	
愛日・中町の幼保連携の実施 四谷子ども園(幼保一元化施設)の開設		連携・一元化の実施 17年度 愛日・中町の連携 19年度 四谷子ども園の開設			(平成19年度に 2所連携 一元化)	年度に の水準達成
連携・一元化に対する保護者の関心・理解の高まり		子どもの育ちの場としての幼保連携・一元化への関心・理解の高まり			(-)	年度に の水準達成
連携・一元化に対する職員の意識の深まり		幼稚園教諭・保育士の理解度向上			(-)	年度に の水準達成
重点項目の達成状況						
		単 位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
重点項目 成果指標	目標値1	所	2.00	2.00	2.00	保護者の関心・理解の高まり 19年度から実施している愛日・中町の合同保育や四谷子ども園の運営を通じて、保護者の関心・理解が高まりつつある状況が、保護者アンケート等を通じて確認することができます。 幼稚園教諭・保育士の理解度向上 チーム保育の実践や合同研修を通じて、幼稚園教諭と保育士の相互理解が進みつつある状況が確認できます。
	実績1	所	1.00	1.00	2.00	
	目標達成率1 = /	%	50.00	50.00	100.00	
	目標値2					
	実績2					
	目標達成率2 = /					
	目標値3					
実績3						
目標達成率3 = /						

主な取組み

愛日・中町幼保連携：4・5歳児幼保混合クラスによる合同保育、運動会・遠足等の合同行事、合同保護者懇談会・保護者アンケート、第一次実行計画で子ども園化の推進を決定
 四谷子ども園：0歳から就学前の子どもに対する一貫した保育・教育の実施、子育て支援事業(つどいのへや・一時保育・子育て相談)の実施

課題

幼稚園と保育園の連携・一元化により、子ども同士の多様な関わりや遊びに広がり生まれ、自立心や社会性の芽生え、規範意識の醸成等の成果につながっています。他方、幼稚園教諭と保育士は、チーム保育を通じて、子どもへの関わり方や職員間の連携のしかた等に幅が生まれていますが、引き続き、園運営の実践・検証や幼保合同研修等を通じた更なる相互理解と、意識向上のための取り組みが必要です。また、今後の子ども園の地域展開にあたっては、四谷子ども園の運営や愛日幼稚園・中町保育園の合同保育を検証し、課題を解決しながら、次の計画へと反映させていくことが重要です。

評価

総合評価	
<p>この項目は、四谷子ども園の運営や愛日幼稚園・中町保育園での合同保育の取組みの中で、子ども達の自立心や社会性、規範意識が培われつつある状況が確認でき、その成果が保護者からも評価されているため、B評価とします。</p> <p>サービスの負担と担い手 就学前の子どもに対する保育・教育の機会の充実と環境整備は、地域遍在を考慮して区が主体的に推進していく必要があります。また、家庭と地域の子育て力の向上を図ることは、地域の活性化を促し、円滑な区政運営に還元されるものと評価しています。</p> <p>適切な目標設定 連携・一元化は、保護者、地域、保育者が手を携え、子どもと子育て家庭を支援する地域づくりを理念に掲げています。これは、後期基本計画に掲げる子育て支援の推進、地域に開かれた教育の推進という施策に合致するもので妥当と評価します。</p> <p>効果的・効率的な視点 連携・一元化により、幼稚園の空き教室の有効利用や、保育所のしくみを活用した預かり保育、給食の実施、また、幼稚園教諭と保育士の交流を通してマンパワーの相乗効果が期待できます。</p> <p>目標の達成度 自立心や社会性、規範意識が培われつつある子どもの姿が確認でき、保護者からも子ども園に対する期待の声が聞かれます。他方、幼稚園教諭・保育士は交流による成果が見られますが、今後さらに相互理解を深め、意識を高めるための工夫が必要です。</p>	B

今後の取組み・改革の方針

引き続き第一次実行計画の「10 幼稚園と保育園の連携・一元化」として進めていきます。また、新宿区総合計画の基本施策「-2- 地域において子どもが育つ場の整備・充実」の中で、今後の幼保一元化施設のあり方に関する基本方針を踏まえ、区内全域で幼保連携・一元化の理念を実現するため、計画的に子ども園の整備を進めていきます。今後の子ども園の展開にあたっては、幼稚園教諭と保育士の相互理解と意識を高めるため、合同研修や交流保育のいっそうの充実と実践に活かす工夫を検討するとともに、園舎整備や子育て支援事業の策定段階から、子ども園の職員を積極的に参画させるなど、これまでの実践や検証が反映できる取り組みを進めていきます。

重点項目を構成する計画事業

	総合評価	頁	総合評価	頁
幼稚園と保育園の連携・一元化	B	50		